

平成26年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	災害用備蓄事業		担当部署	企画総務部 危機管理局 危機管理課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市地域防災計画・鳴門市地震津波対策推進計画・国民保護法第146条・災害対策基本法第49条	
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	平成 16年度
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なると			▼
(小項目)		0		終期	未定 ▼
施策	1	災害に負けないまちづくりの推進			
基本事業	3	防災施設・資機材等の整備			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 災害時に避難した市民等の避難者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	災害時に避難所での生活を余儀なくされた市民等が少しでも安心して過ごせるよう、計画的に備蓄物資を整備する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	単位
		アルファ米の備蓄量	11,000	12,450	18,350	23,750	29,500	食

◎実施結果(DO)

事業実施内容	25年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成25年1月に寄付を受けた飲料水を市災害対策本部、各支部及び教育機関に配付したほか、孤立化が予想される地区の避難所にアルファ米を配備した。 また、災害時に被災した市民等が避難所で少しでも安心した生活が送れるように、市災害対策本部13支部に発電機、ハロゲン投光器セット等を整備するとともに、アルファ米、粉ミルクについても年度末の更新時期までに購入した。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
		指標名	24年度実績	25年度実績	26年度目標	27年度目標	28年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	アルファ米の備蓄量	11,000	12,450	18,350	23,750	29,500	食
	2	粉ミルクの備蓄量	48	48	25	25	25	缶
成果指標 対象にどのような効果があつたかを示す指標		アルファ米の備蓄量	11000	12450	—	—	—	食
		目標達成率(実績/目標)		100.0	—	—	—	%

コスト分析		24年度実績	25年度実績	26年度	27年度	28年度	単位	
事業費	(財源内訳の合計)	762	3,135	1,958	1,958	1,958	千円	
	財源内訳	国	0	0	0	0		0
		県	0	190	0	0		0
		地方債	0	0	0	0		0
		その他	0	2,000	0	0		0
		一般財源	762	945	1,958	1,958		1,958
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		326	326	652	652	652	人	
人件費内訳	正規職員(6,517千円/人)	0.05	0.1	0.1	0.1	0.1		
	臨時職員等(2,012千円/人)							
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		1,088	3,461	1,635	1,492	1,504	千円	

【事務事業名:災害用備蓄事業】

◎平成26年の実施状況(DO)

<b>現在の実施状況</b>	備蓄食糧等の移管・更新作業を引き続き行いながら、南海トラフ地震等に対応した備蓄体制を構築するため、県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」で示された目標を達成するため、物資を着実に整備する。今年度は、アルファ米(おかゆ含む)を7,900食、粉ミルクを20kg、飲料水を4,000リットル分(給水袋)、毛布を150枚購入する。また、賞味期限切れ間近となったアルファ米を活用し、市民への災害用備蓄の啓発を行うとともに、粉ミルクについても、市内保育所へ提供し、有効活用に努めるほか、災害用備蓄資機材の整備等についても継続して取り組む。
----------------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	<b>1.必要性の評価</b>		<b>理由等所見欄</b>
	<b>10</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	被災状況を考慮し、食糧が確保されるまでの初期対応として、災害対策本部及び各支部に備蓄している。備蓄食糧をもって、避難者に食糧給与を行うことができることから、本事業については非常に重要。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 災害に負けないまちづくりの推進 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	<b>2.有効性の評価</b>		<b>理由等所見欄</b>
	<b>8</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 行政内部の管理上の課題解決に貢献している。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業目標が達成できるような事業内容になっている。			
<input checked="" type="checkbox"/> ④ 事業対象は適切である。			
<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。		
<b>3.効率性の評価</b>		<b>理由等所見欄</b>	
<b>8</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		

◎今後の方向性(ACTION)

<b>課題</b>	南海トラフ地震等に対応した備蓄体制を構築するため、県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」では、平成30年度までに備蓄目標として通常食30, 630食、要援護者用9, 078食、粉ミルク8, 750グラム、飲料水60, 000リットル、毛布10, 000枚の備蓄に努めるよう示されており、予算と備蓄場所の確保が課題である。				
<b>今後の方向性</b>	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>4</b>
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
<b>今後の改革案</b>	実施予定時期	未定 ▼ ▼			
	どのように改革するのか	予算と備蓄場所の確保に努め、備蓄方針にそった計画を策定する。			